

まちづくり交付金 フォローアップ報告書
伊勢原駅周辺地区

平成22年3月

神奈川県伊勢原市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4 - 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	まちなか南北往来者数の増加	人/14h	7,800	9,300	9,367	確定 見込み		あり なし	9,029	H21年11月		改善策はそのまま改善策に補強が必要新たに改善策をたてる	計測に合わせてモニタリング調査を実施し、従前からの改善や8割を超える満足度が得られ、十分な効果が確認された。
指標2	南口アクセス時間の短縮と目的交通の円滑化	回	4	1	1	確定 見込み		あり なし	1	H21年11月		改善策はそのまま改善策に補強が必要新たに改善策をたてる	道路整備により交差点の混雑が緩和され、交通の円滑化が図られた。
指標3	農産物直売所等の来場者数	人/年	160,000	210,000	253,594	確定 見込み		あり なし	251,512	H22年3月		改善策はそのまま改善策に補強が必要新たに改善策をたてる	道路整備によりアクセシビリティが向上し、周辺の回遊性が増した。
指標4	歩行者のバリア解消率	%	25	80	63	確定 見込み		あり なし	82	H22年3月		改善策はそのまま改善策に補強が必要新たに改善策をたてる	特定経路のH22年度完了に向け、着実に進捗が図られている。また、アンケート調査から、この効果の他地区への波及に期待が寄せられた。

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2- から転記 全ての指標について記入

フォローアップの必要のある指標について記入

全ての指標について記入

様式4 - その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1					確定 見込み				H 年月			改善策はそのまま改善策に補強が必要新たに改善策をたてる	
その他の数値指標2					確定 見込み				H 年月			改善策はそのまま改善策に補強が必要新たに改善策をたてる	
その他の数値指標3					確定 見込み				H 年月			改善策はそのまま改善策に補強が必要新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2- から転記 全ての指標について記入

フォローアップの必要のある指標について記入

全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4 - 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5 - に記載した今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために 行う方策	基盤整備を契機とした市民が愛着をもって誇れるふるさと伊勢原の顔づくりと、賑わいの向上	駅自由通路に隣接して市窓口センターや店舗等が開業した。今後、観光案内所も整備することとなっている。自由通路内に整備した駅周辺案内板(パンフケース付)には、市広報誌のほかに既存組織が作成したイベント案内や飲食マップ等も多く設置された。	モニタリング調査により駅自由通路内の店舗等による賑わいについて、約6割の人が向上したと回答している。駅自由通路内に設置した案内板により、既存組織によるイベント等も含めた地域の情報を発信することができた。	モニタリング調査により駅周辺の回遊性や賑わいの向上面での評価が低く、新たな店舗やイベント促進など、活性化に向けた今後の取り組みに期待が寄せられている。周辺整備により回遊性を高めて賑わいの向上、地域づくりを広めていく。
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	地区の骨格を形成する基盤整備の推進	バリアフリー特定経路において、特殊インターロッキングブロック(低振動、嵌合型)及び点字ブロックの整備を行った。また、電線地中化整備を行った。	歩行者の安全性が高まった。また、モニタリング調査により、歩きやすさの向上、景観の向上が図られている事を確認できた。	引き続きバリアフリーを推進していくとともに、生活道路の安全性、快適性を高めていく。
	交流の活発化	駅北口整備事業化を推進する区域の関係権利者等によって、伊勢原駅北口整備推進協議会が組織化された。	駅北口整備事業の事業化に向けて具体的な検討を進め、事業推進を図ることとなった。	引き続き、駅北口整備事業の推進を図っていく。
	身近な生活環境の改善	防災無線の整備、広域避難所誘導看板の整備を行った。	防災機能の向上が図られた。	防災意識を高めて安全で安心して暮らせるまちづくりを推進する。また、生活道路の安全性、快適性を高めるとともに、地域交流の促進を図るため、市道修繕、公園整備を順次進める。

事後評価シート 添付様式5 - から転記

様式4 - フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項